

夢しゃーなる

Vol.
16

第4期阪神北地域ビジョン委員会だより
平成21年(2009年)3月
発行/阪神北地域ビジョン委員会
編集/阪神北地域ビジョン委員会広報部

http://web.pref.hyogo.jp/area/n_hanshin/vision.html

題字：早野 邑水

特集

ビジョン委員 座談会

「第5期ビジョン委員会に
参画されるあなたへ」

阪神北地域夢会議
阪神北は地域ブランドがいっぱい!



平成21年2月28日
アステ川西

主催：阪神北地域ビジョン委員会・兵庫県阪神北振興局

目次

- ◆ 特集 ビジョン委員 座談会「第5期ビジョン委員会に参画されるあなたへ」 2～5
- ◆ グループ活動報告 2～7
- ◆ であいたい紀行 8

特集

ビジョン委員座談会

～第5期ビジョン委員会に参画されるあなたへ～

1月某日、第4期ビジョン委員会の各活動グループ代表が阪神北県民局に集まり、座談会を開催しました。座談会ではこの2年間の活動を各々振り返っていただき、その成果と反省をふまえ、第5期ビジョン委員会に参画されるみなさんへ向けた期待を語り合いました。その模様を一部誌上でご紹介します。

各グループの活動の内容・成果は、別冊『第4期阪神北地域ビジョン委員会活動報告書』および『夢になる』バックナンバーもご参照ください（お手元がない場合は阪神北県民局地域ビジョン課までお問合せください）。

第4期の活動をやり終えて

ビジョン委員というのは「阪神北地域ビジョン委員会設置要綱」に記されています通り、『21世紀兵庫長期ビジョン 阪神市民文化社会ビジョン』を県民の参画と協働により実現していくために設置されており、委員はそのための実践活動はもとより、県民に対しビジョンの普及啓発をしていく役割を担っています。しかもみなさん、自らの意志で参画してこられた方ばかりです。各グループともこの2年間で、一步一步着実に

に掲げられた目標に向けて進んでこられておりますが、その先の大きなテーマにはまだ辿り着いていないというのが正直なところなのではないでしょうか。このやり残してしまったことに関する課題が、第5期に参画されるみなさんへの提言になるかと思いますので、自由に意見をお話ください。

A 課題ということではないですが、「夢会議」や「子どもと地域の環境会議」等々への参加を通して、地域のこと、環境のこと、教育のことを強く意識するようになりましたね。ビ

グループの活動

第1分野 多世代交流 “じばヤング” グループ

『さぁおいで！ みんなで作って遊ぼうよ』



「昔の遊び」をテーマに子ども達と竹のポックリ

馬、竹の輪投げ、佐世保ゴマ、折り紙コマを作り楽しいひと時を過ごしました。

11月1日 「大和団地三世代交流福祉まつり」に参加

子ども達は準備が完了するのを待てないくらいの勢いで集まりました。たくさんの親子連



れに囲まれ大忙しでしたが、親子で一つの事に真剣に取り組んでいる姿はとてもほほえましいものがありました。



11月9日 「あわじふれあいフェスティバル」に参加

当日は曇り空の寒い1日でしたが、大勢の親子連れの参加があり、手作りのおもちゃで遊びに興じました。竹筒に思い思いの絵や字を書い

て完成したぽっくり馬は全員笑顔で持ち帰りました。洲本高校放送部の取材などもあり世代間交流の1日でした。

親子間の嫌な話を聞くことの多いこの頃ですが、竹の調達から始まった私達の活動も多世代交流の意義があり親子の絆を深める一助になったのではないかと思います。



ビジョン委員になっていなければ、そういった集まりが開催されていたことすら知らなかったですし、これほど学ぶこともなかったと思います。

B 課題とすれば、「テーマの継続性」でしょうか。

ビジョン委員の任期は2年間ですが、この2年間というのが長いようで実はあっという間に過ぎてしまいます。これは実感ですね。先ほどもお話にありましたが、当初立てた目標をこの任期中に十分満足できるころまで達成できるかという、なかなか難しいように思います。

ビジョン委員は再任が1回できますから、最長で4年間携わることができそうですが、次の期になったらテーマが変わっていく場合もありますし、中途半端になる可能性があるように思います。

C 私たちのグループでは、第3期のみなさんがやってこられたこと、また第3期から引き続き第4期へと再任された“先輩”の意見や経験を参考に第4期の活動計画をたてましたので比較的スムーズにスタートできました。

2年間の活動の証を残そうと、活動内容を詳

細にまとめた冊子を作成・発行することにしました。やはり自分たちが取り組んできた活動がカタチになって残ることはとても達成感がありますし、やって良かったと実感しています。

そして、何よりも収穫であったと思っているのは、新たな“人の輪”が築けたということです。ビジョン委員の活動をしていなければこの出会いは無かったわけですし、任期終了後もこの交流は続けていきたいとみんな言っています。

ビジョン委員会の可能性

他グループとの交流や連携についてはいかがでしょう？

D 活動テーマの性格上、他グループとのコラボレーションはしづらいように思います。他グループとの連携も確かに模索中ではありましたが、まずは自分たちのグループの目標を達成するためにがんばりました。

もともとは自分の住んでいた地域で考えていた活動が、ビジョン委員になったことで活動の場が4市1町（伊丹・宝塚・川西・三田・

第1分野 ゆったり子育てサポートグループ

子育て講演会 “楽しみましょう 子育てを” ～上手なほめ方、叱り方～

10月18日（土）、宝塚市立男女共同参画センターで、元幼稚園園長の松葉牧子氏にお話をいただきました。講師のお話は次のとおりでした。

「子育ては育児書どおりにはいきませんが、まず子育ては親育ちの場所です。子どもからのアクションで親自身が成長していきます。そこに身内や地域・ご近所などのちょっとした応援があれば尚よいですね。叱り方としてはダラダラと叱らないでポイントをつかんで叱ることが大切です。そして叱ったあとは心からギュッと抱きしめてあげてください。

何よりも規則正しい生活がやる気を作ります。そしてそのやる気を幼児期の間に起こすことがとても大

切、その為に朝・昼・晩のけじめをつけましょう。

“子ども同士で遊ばせる”これができるのです。人との交わりの中で育て、生き物を育てて慈しむ心をはぐくみ、そして、手作りのものを与えてスキンシップをしながらなんでも体験させてあげましょう。

愛があればどのようなことでも解決するのです。」

講師を囲んでの質疑応答では参加者全員が一言ずつ意見を言われました。一人一人の質問に丁寧に答えられました。

いろいろと質問がでましたが、未就学児が遊べる場所を増やしてほしいとの質問には、案内のパンフレットを用意して紹介しました。

質疑応答の前に、特にスタッフが心をこめて作った可愛い手まり（布

製・鈴入り）を配りますと、とても喜ばれ緊張がとけていっぺんに和やかな雰囲気になりました。

当日に飛び込みで参加された方や、子育ての参考までに聴かせてくださいと出席された方もあり、定員をこえての講演会となりました。



参加者数 36名
ご夫婦での参加4組 他16名
託児9名 幼児3名

猪名川)に拡がり、グループとしてはとても充実した活動ができました。

シンボルプロジェクトや夢会議等に参加して、グループの枠を超えた活動の魅力も分かってきましたので、第5期のみなさんには他グループとの連携についても積極的に検討していただきたいですね。

E ビジョン委員会では、4つの分野（県民行動プログラム）に即して各グループの活動を行っています。県民行動プログラムを理解・意識して行う分野単位の活動がもっとあっても良いのかなと思います。

また、ビジョン委員同士やビジョンの活動に関わる各団体等のみなさんとのネットワークを構築するチャンスがいっぱいあるのに、活かしきれていないように思います。

F 私のグループは、たまたま同じ地域のメンバーばかりになったことで、メンバーが集まることも容易で、活動もその地域での活動が中心になりました。

メンバーの集まりやすさや活動の機動性という観点では、少人数同一エリアのメンバーでグループを構成した方がやりやすいとは思いましたが、活動のテーマ・範囲を拡げるこ

とがなかなか難しかったように思います。活動を拡げてもメンバー一人当たりの負担が大きくなり過ぎないようにするためには、テーマに応じた適当な人数が各地域からまんべんなく集まった方が良いのかなとも思いました。

G ビジョン委員は、何も自分たちで1から10まで活動をするのがすべてではなく、われわれの“ビジョン”を4市1町の県民に広く浸透させる役割を担っているんだと理解してみたいかがでしょう。幸い私たちの生活する阪神北地域は、相対的にコミュニティの意識が非常に高いと言われていまして、私もそう思います。きっとみなさんもそうお感じだと思います。ならば、地域単位のコミュニティや各種団体とビジョンを共有し、各地のパワーを活かすための働きかけ、きっかけ作りをビジョン委員が取り組んでいくという方法もあります。

H ビジョン委員自身も国・県・市の基本方針を理解した上で、活動に取り組む必要があると思います。行政や県民に意見したり、提案をしていくということは、われわれ自身の質の向上も求められると思います。ビジョン委員の活動を通じて、行政のしくみやさまざま

第2分野 明るく楽しく健康づくりグループ



平成20年10月11日(土)前夜から小雨のぱらつく朝でしたが、開演前には秋晴れの天気となり、三田温泉シルバーステイにおいて、デイサービス通所・入所の方や職員、ご家族の方たち約60余名の来場者を迎えることが出来ました。三田のボランティアグループ「あいの民謡同好会」のみなさんによる民謡や曲に合わせての健康体操、さらにはソーラン節など手拍子・鳴子に合わせた大合唱で盛り上がりました。次の準備の合間に、頭の体操でクイズにも挑戦して戴きましたが、即座に回答が出るなど準備していた問題があっという間になくなりました。続

いて、イベントなどにもひっぱりだこの「あすなる腹話術サークル“にこにこ”」。腹話術、手品、かっぽれ、さらには、南京玉すだれと、次から次への演目に笑いが溢れ、拍手喝さいの1時間でした。少々時間もオーバーしましたが、大いに楽しんで戴きました。



明るく楽しく健康づくりグループ最終公演は1月30日(金)猪名川町ゆうあいセンター内の知的障害者授産施設・希望の家“すばる”で、新年にふさわしい大道芸「ひまわり座」の出前演芸を楽しんでもらいました。作業所の方々やデイサービス

の方々、職員の方々30余名の拍手に迎えられて、まずは観客も参加しての南京玉すだれ、サブちゃんとの会話もはずむ腹話術、さらには「花笠音頭」「ドジョウすくい」やナナちゃんのフラダンスが炭坑節になったり、「崖の上のポニョ」の曲に合わせて数人が舞台上で一緒に踊ったり、次から次へと変わる手品で目を白黒、「何で何で」と不思議そうに食い入るように眺めていました。最後にはおばあさん姿での唄、学生服姿の「高校三年生」も飛び出し、グループ最後の活動として大いに笑って戴き、楽しい時間を過ごして戴きました。



なルール・知識を勉強していくことも必要でしょう。

ビジョン委員の取り組み方 ～まずは楽しく！～

みなさんはビジョン委員だけでなく、それぞれの地域での活動やプライベートな予定等でお忙しい方が多いことと思いますが、ビジョン委員の活動を負担に感じたことはありませんか？

I ビジョン委員になった当初はメンバー全員が具体的に何をしたらいいのかわからず、何かしないといけないという気持ちからあせりやしんどさを感じました。でもメンバー間の交流が持てるようになり、まずは「自分たちが楽しまない」と考えるようになってからは、集まること自体が楽しみに変わり、メンバー間に限らず、地域の方々との交流や、様々な活動に参加させていただくことが楽しみになってきました。この活動を楽しむという気持ちがいろいろな活動に取り組んでいく原動力になっていると思います。

J ビジョン委員になっても実際は活動になかなか参加できない方もいます。もちろん積極

的に参加できることが理想ですが、みなさんそれぞれの都合もありますから、あまり肩肘張らず来れる時に参加するくらいに思っただいて良いのかなと思います。その時その場でできることからやっていくということで、ビジョン委員になっているだけでその存在自体がいろんなカタチできっかけを提供することになると思います。

K 第5期のみなさんは、23年度からの新しい県民行動プログラム作成にも参画していただくこととなります。ビジョンの実現に向けた活動を展開していく上で、ビジョン委員のみなさんには楽しく取り組んでいただきたいと思います。

L 第5期から新たに参画されるみなさん、第4期から引き続き第5期も再任されるみなさん、どうぞ仲良くがんばってくださいね！

長時間ありがとうございました。本日はこうして自由に意見交換ができる機会が持てて本当に良かったと思います。みなさんお一人お一人の力と新しいなかまの力をあわせてより良いビジョン委員会を作り上げていきましょう。

第2分野 地域活動のしくみづくりグループ

私たちは“いざというとき”最大の力を発揮するのは地域の力・ご近所の力だという体験をもとに、現在システムづくりが進められている『災害時要援護者支援制度』について取り組んできました。

1. 取り組みに至る経緯

平成7年に発生した阪神・淡路大震災以後、新潟中越地震等において、高齢者や障害者等、いわゆる「震災時要援護者」と言われる人々に対する安否確認や状況把握に手間取ったことや、情報不足、被災後の生活等のケアが十分でなかったことなど、災害時要援護者支援のあり方に多くの問題が生じた事にかんがみ、平成18年3月に『災害時要援護者の避難支援ガイドライン』が内閣府から提示され、「災害時、一人も見逃さない運動」が展開されています。

2. 取り組みの方向性

4市1町の『災害時要援護者支援』の取り組み現状調査を進めた結果、問題点として、以下の3点が挙げられています。

①防災関係部門と福祉関係部門の連携が困難で、要援護者や避難支援者への避難勧告等の伝達体制が十分

に整備されていない。

②個人情報への意識の高まりに伴い、要援護者情報の共有・活用が進んでおらず、発生時の活用が困難である。

③要援護者の避難支援者を定める方法が難しく、避難行動支援計画、体制が具体化させ難い。

上記の課題を克服する為に4市1町に於いては、モデル自治会を指定するなどの取り組みを始めています。

3. 今後の展開

『災害時要援護者支援制度』が構築された地域では、住人に認知され浸透していく状況は地域差がありますが、要援護者と支援者との連携が、いかにうまく図れるか否かが、“いざという時のために”、大きな力を発揮すると思います。次は取り組んだこの制度が地域にいかにか定着されているのか、先進事例を追ってお知らせしたいと思います。



第3分野 街の緑を守り育て隊グループ

夢じゃーなる 15号にて「すばらしい街の緑もこんなにありますよ」と題したレポートで美しい街路樹、市民参加で管理されている街路樹等を紹介させていただきましたが、今回は現地調査で見た強剪定、緑の全く無い新設幹線道路、管理の放置されている街路樹等残念に思う街路樹を紹介します。このように「かなしい街路樹」が見られることは残念ですが、市民と行政が共に街路樹を緑の社会資本として高い認識を持ち、官民協働でその管理保全に当たればきっと無剪定で枝葉を自由に伸ばした「緑陰道路」の実現が可能になるとともに、さらに緑豊かな「森の中の都市」創りに一歩近づけるのではないのでしょうか。



▲樹高と横枝の強選定のため枯死寸前の街路樹



▶ここまで強選定された街路樹は電信柱のようです。



▲街路樹が一本も無い幹線道路



▲落葉量を少なくするために上部を全てカットされた公園の木



◀管理不足で苔に覆われた街路樹は苦しみ泣いているようです。

第3分野「らぼ・こどもと・ゴミ環境」グループ

○世界稲刈り選手権で収穫の喜びを体験

平成20年10月4日 三田市藍地区の藍農園で晴天の中、世界稲刈り選手権を開催いたしました。ダンボールコンポストの作り方・稲刈り作業の注意事項等の説明の後、ダンボールコンポストで育てた稲の刈り入れを行いました。

子供達を始めおじちゃん、おばちゃんも皆、慣れないカマを手にグループのおじちゃんに教わったおりに稲を刈って大喜び。そして、皆げがもなしに稲刈り作業が終わりました。

お昼ご飯には前もって収穫したコンポスト米と、ダンボール

コンポストで育てた、野菜などでバーベキュー大会を開いたほか、「ECO こどもとの空間」グ

ループも一緒に芋ほりも体験しました。



「こどもと地域の環境会議」～阪神北からはじめよう～ 盛大に開催！！

将来を担うこどもたちに、地球温暖化を身近な問題と考えるきっかけの提供、環境学習プログラムで学んだことについての意見交換を目的に、さる12月21日(日)にイナホール(猪名川町)にて、小・中学生をはじめ、地域の大人も含め350名余の参加により「こどもと地域の環境会議」が開催されました。私達ビジョン委員も、環境学習プログラムである「いきものみつけ」・「阪神北エコライフ大作戦！」に事前に参加し、会議に向けて準備しました。当日は、第1部「楽しく学べる環境学習」を担当しました。前半は猪名川町の郷土芸能として「猪名川源流太鼓」の演奏。後半は「地球温暖化」



に関する環境クイズに挑戦。クイズは「地球温暖化」に関して、①主要な原因(CO2)、

②その与える影響、③家庭から排出するCO2の量、④だれにでもできる温暖化防止策



で構成。クイズを通じて、参加者全員、「地球温暖化」について学ぶことができました。第2部のメインイベントは、「こどもと大人のエコセッション」でした。会場の出席者全員が参加する形の意見交換で、今回のこどもによる環境学習プログラムの成果を踏まえ、「地球温暖化」を防止するために各人がやらなければならないことについての活発な意見交換と現在のライフスタイルの見直しの必要性についての意識の共有化ができ、参加者全員が有意義な時間を過ごしました。

○ボランティアグループでも地域ブランド実現への第一歩

平成20年10月18日 三田市藍地区の藍農園で、らぼ・こどもと・ゴミ環境グループが、ダンボールコンポストで育てた黒豆の収穫祭を開催しました。生ゴミ減量をテーマとした我々のグループが地域ブランドを担えるのか、ということも考え、実践してみることにしました。

収穫祭を開催するために、畑を耕し、ダンボールコンポストで作った肥料を、黒豆の種の上に蒔いて、その後、生育の管理をしました。農家の皆さんの大変な作業を我が身で体験しました。

そして待ちに待った収穫祭。多くの方が参加してくれるのか、そ

んな心配もすっかり忘れてしまう程の300人の参加者でした。イベントに協力してくれた「ECOこどもとの空間」グループの参加メンバーも大喜び。さらに、ダンボールコンポストでの生ゴミ減量を理解してもらい、次回は、自

家製の肥料を持込んで黒豆の種まきに参加する方も募ることが出来ました。

多くの参加者から、今後もこの事業を継続して欲しいとのお言葉ももらいました。



第4分野であいたい

であいたい紀行⑤

摂州多田銀銅山、平野～多太神社～多田神社
猪名川と川西の古道を歩く

昨年10月22日、歴史ある銀銅山と源氏の祖、源満仲を祀る多田神社周辺を歩き、古代からの鉱山業と周辺地域の成り立ちを学ぶこととなった。

川西能勢口からバスで北上、パークタウンの白金で下車、長い螺旋階段から銀山への古道へと下りる。このあたりは幕府直轄領であった頃の銀山町の入り口で「口固め番所」があったとされている。まずは資料館を目指す。多田銀銅山の歴史は古く、奈良時代の東大寺大仏銅寄進伝承に遡る。埋蔵金伝説も残る豊臣時代が第一の盛山期、江戸の寛文年間（1660年代）が第二の盛山期であった。盛山期の様子を描写した最徳寺絵図などによると道沿いにびっしりと人家が並び、芝居小屋、相撲土俵などもみられ「銀山三千軒」といわれた賑わいを偲ぶことができる。

「悠久の館」（資料館）で説明をうかがった後、小雨の中を足早に集落を抜けて青木間歩の坑内に入る。此処は近代の間歩だが、荒々しい岩肌の中に今も孔雀石と石英の鉱脈を見ることができる。この道は豊臣期の富鉱であった台所間歩や瓢箪間歩につながり、北東へ抜け山を越えれば篠山街道へ、西は宝塚大原野へ分岐している。産出する鉱石は川西の



山下（下財町）の吹き屋へも運ばれていた。我々は青木間歩から引き返し、バスで日生中央へ、そして能勢電鉄平野駅へと移動した。

平野からは川西市文化協会会長にご案内をお願いする。江戸時代の有名な旅行案内ともいえる撰津名所図会に北撰三湯所のひとつ、「平野の湯（多田の湯）」が描かれている。今はひっそりと立つ温泉跡と薬師庵の石碑を見ながら20を超える温泉宿が湯治客で賑わっていた頃を想像した。雨の中ではあったが多田神社に向かう途中に延喜式内社である多太神社に立ち寄り、元文元年（1736）並河誠所によって建てられた社号標石を見る。古い参道を通り、満願寺への渡し跡を確認しながら多田神社へと向かう。

撰津名所図会には「多田院神廟」となっており、明治の神仏離号令までは源氏一族の祖廟であるとともに、神仏習合の広大な寺社であった



ことがうかがえる。御家人集団が院を保護し、多田院が荘園や銀銅山の一部を所有していた時代もあった。現在も各社殿は国や県の重要文化財であり、元禄期に柳沢吉保が献納した石灯籠も残る。最後に宝物殿にて甲冑や書画を拝見したが、ここには国指定文化財の「多田神社文書」が保存されており、史学研究に大きな貢献をなしている。川西、猪名川周辺の地は、弥生の昔から人の住まう地であったが、多田銀銅山の鉱物資源がこの地の開拓を呼び、人や物の流通に大きく関わったことが推測できる。近世には旅人が湯治や寺社めぐりに古道を往来していたことも実感できたことであった。

編集後記

- 広報活動を通じて阪神北地域の実状を知ることができました。今後の活動に活かします (T. S)
- グループでなかなか得られない達成感がありました。倍の出会いがあり、濃密な2年間でした (K. O)
- 今までとは違った人々との出会い、ふれあいの楽しい2年間であった (S. O)
- 2年間楽しく活動させていただき、ありがとうございました (T. M)
- 地域で活動されている人たちとの出会いは、心地よい「脳トレ」になりました (F. T)
- 街への愛で、美しい緑豊かな街が生まれる。皆の、また未来の子供たちのために (K. T)
- メンバーに恵まれ、素敵な出会いや勉強にもなりました。感謝！ (K. F)

- 素晴らしいメンバーに出会えて最高でした！ (Y. T)
- 時間と体力と気力で参加すること4年間。素敵な仲間ありがとう！！ (Y. T)
- やってよかった！と実感できる2年間でした。第5期のみなさんのさらなる活躍を期待しています。 (N. E)

お問い合わせ先／兵庫県阪神北県民局地域ビジョン課
宝塚市旭町二丁目四番十五号
電話 0797-83-3119